

防災基礎コースのリニューアルについて

1. 完全オンデマンド化による変更
2. リニューアルのスケジュール
3. コース構成
4. テストの作成方法

1. 完全オンデマンド化による変更

●募集と開催

(他の9コースと共通)

- ・国、地方公共団体、指定公共機関の職員を対象とする
- ・R5年度は、1・2期の募集時に同時に受講者を募集する

(防災基礎のみ)

- ・定員を拡大する(120人/年→600人/年)
- ・1・2期の受講者ともに通年度受講可能とする

●位置づけ

- ・他の9コースの応募前に、防災基礎を修了していることを必須条件とする
- ※ただし、R5年度は移行措置として同時受講を可能とする
- ※同時受講の場合は、他のコースの演習開始までに防災基礎を修了することとする

(背景)

- ・防災基礎は「前提となる知識」を学ぶため、各コースの事前に学習することが望ましい
- ※前提となる知識：災害発生メカニズム、防災関連法律・計画、各防災活動の概要
- ・完全オンライン化により、各コースの全受講者が事前に修了することが可能になった

●修了認定

- ・必修単元の講義を全て視聴すること
 - ・必修単元の確認テストを完答すること（初回の点数は問わない）
 - ・最終テストを完答すること（初回の点数は問わない）
- ※最終テストは全問正解するまで繰り返し実施する
- ・希望が無い場合は修了証を発行（郵送）しない

●修了者の識別方法

他の9コース応募者について、防災基礎コースの修了状況を以下の方法で識別する

（過年度の修了者）

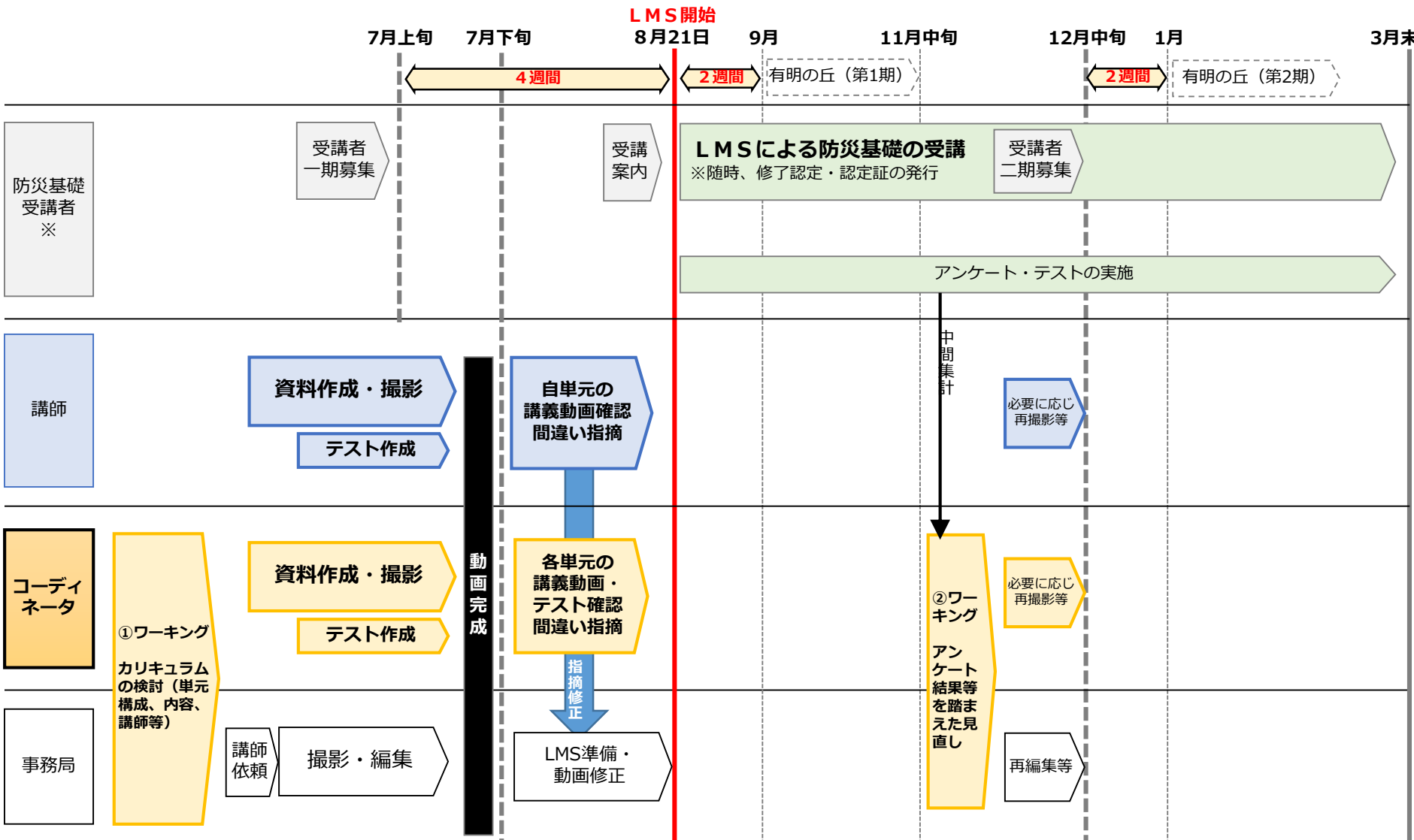
- ・応募者は、受講申込時に「防災基礎コース修了年度・期」を自己申告する
- ・事務局は、過去の防災基礎修了者から応募者（所属機関・氏名）を照合する

（今後の受講者）

- ・応募者は、応募時に「生涯受講者番号」を取得（メールアドレスに紐づけ）
- ・事務局は、R5年度以降の受講者の応募・受講・修了状況を「生涯受講者番号」に紐づけて管理する
- ・事務局は、過去の受講者からの求めに応じて、「生涯受講者番号」に紐づく各コースの応募・受講・修了状況を回答する（→WEBサービス化を検討）

2. リニューアルのスケジュール

●実施スケジュール（案）



※他の9コースとの同時受講者のため防災基礎の開講を2週間前倒し

● 準備スケジュール

■ 受託者 ■ 内閣府

①コースリニューアルの設計		3月	4月	5月	6月	7月	8月
有明1期開始までのスケジュール検討		■					
「コース見直し案」の確定		■					
「IDに準じた単元への見直しに関する説明資料」の作成		■					
WG意見照会⇒反映⇒内閣府へ説明資料の提供			■				
内閣府内での説明会及び講義資料の修正 ※学習目標も見直し			■	■			
②コースリニューアルの準備							
講師への説明(コース見直し、ID、演習の座学化等)					■	■	
[各講師]講義資料作成・テストの作成					■	■	■
講義資料のフォーマット確認(ID、学習目標、テスト等)・修正依頼					■	■	■
講義動画の撮影					■	■	■
講義動画の編集					■	■	■
編集済み講義動画の講師への確認・修正					■	■	■
学習システム(LMS)の準備・掲載					■	■	■
③(新年度)防災基礎コースの募集等に係る事項							
募集要綱の作成、都道府県への通知					■	■	
ホームページの情報掲載、パンフレットの作成					■		
受講者募集						■	
受講者情報の整理、LMSへの登録						■	
受講確定通知							■
受講情報(ログインID・PW)の案内							■

3. コース構成

●方針

- ・災害発生を理解、防災関連法律・計画等、各防災活動の概要について学ぶ
- ・各防災活動の概要は、災害過程の流れに沿った組み立てとする
- ・災害対策基本法に関連すること、災害救助法に関連すること、被災者生活再建支援法に関連すること、については、まとまった単元とする

※各防災活動の概要では、各コースの単元と重複するテーマも扱う

●進め方

- ・コーディネーターとのワーキングにて単元・講義を決定していく
- ・準備スケジュールに沿って、内防および関係省庁の講師に講義の作成を依頼

4. テスト作成

● テスト作成の基本ルール

設問文：

- 各区分に設定した学習目標に関連する問題を3問作成する
- 問題の内容は学習目標に関連したものを問う
- 講義で説明した内容の中から出題する

回答選択肢：

- 回答選択肢は、①正しい文章を1つ、誤った文章を3つ作成し、正しい文章を選択させる出題形式、または②正しい文章を3つ、誤った文章を1つ作成し、誤った文章を選択させる出題形式を基本とする
- 選択肢の順序には意味を持たせない（ランダム順で出題する）

解説文：

- 受講生が回答を入力した後、問題の正誤に関わらず、問題の詳細な解説文と講義テキストの該当箇所を表示する

● テスト作成のプロセス

- (1) 出題の対象（身につける知識）をテキストから抽出する
- (2) 問題文と正答の選択肢を作成する
- (3) 誤答の選択肢を作成する
- (4) 解説文を作成する

※ 講師の希望に応じて（2）～（4）は事務局が行い、講師が確認する

●テスト作成時の確認事項（事務局がチェック）

出題の対象の抽出

- 重要な事柄を問うこと、些末なことや一般的すぎる問いにしない
- 「防災基礎」コースに適した基本的な内容を問う

「問題文の作成」に関する留意事項

- 一つの問題では、一つの要素を問う。複数要素を混在させない
- 問題の主内容と違うところで正誤が決まるような、ひっかけ問題にしない
- 冗長な表現を避け、回答に不必要な内容を含めない

「選択肢の作成」に関する留意事項

- いずれの選択肢ももっともらしくする
- 選択肢の長さ・内容・文章構造を揃える
- 曖昧さが生じるため、可能性の幅を持たせた表現は避ける
（～する場合がある、一般的に、条件により、等）
- 解釈に主観が入る程度（非常に、僅かに、等）や頻度（いつも、まれに、等）の正誤は問わない
- 正答が推測しやすいため、断定の表現は避ける（決して～ない、必ず～である、等）

「解説文の作成」に関する留意事項

- 解説は身につける知識の範囲で出題し、他の知識等は含めない

<参考文献>

- ・ 名古屋大学 石井研究室「テスト問題作成ガイドライン」
- ・ 日本テスト学会誌 大学入試センター研究開発部 荒井 清佳:多肢選択式問題を作成する上で大切なこと —問題作成の専門家に対する調査結果に基づいて—